

# 「フォレスター活動民国連携調整会議」通信

＜優良事例の紹介＞ Vol.8 2026.3

フォレスター活動民国連携調整会議は、北海道及び北海道森林管理局の森林総合監理士（フォレスター）等が、市町村等への技術的援助やその他必要な協力を円滑かつ効果的に実施するため、情報共有の徹底と連絡・調整等を図ることを目的に設置しています。

## 北海道勇払郡厚真町

### 胆振東部地震により崩壊した林地の再生に向けた取組

#### 被災状況・森林現況の把握、被災地復旧に向けた現地見学会の実施

##### ＜関係機関＞

厚真町、苫小牧広域森林組合、胆振東部森林管理署 等

#### 背景と経過

##### 現 状

- 平成30年9月に発生した胆振東部地震により、厚真町では甚大な林地崩壊が発生した。これを受け、関係機関等にて設置された「胆振東部森林再生・林業復興連絡会議」において、被災森林復旧指針及び森林再生実施計画を策定し、令和4年度から令和8年度の5年間で集中的に森林整備を進めている。

##### 問題点

- 森林再生実施計画に基づく被害木処理や植林等は概ね計画通りに進んでいる。一方で、自然回復を図ることとしている対象地の一部において、カラマツ実生苗が高密度に天然更新している箇所が確認されており、カラマツ天然更新を活用した森林復旧が期待されているが、大規模な崩壊による植生基盤が流出した条件下での植栽や天然更新の事例が少ないことから、今後の生育、保育手法が確立されていない。

##### 課 題

- 発生した個体の今後の推移や、保育の必要性・手法の検証が必要。

##### 解決策

- 地域の林業関係者等を対象に、国有林のカラマツ天然更新地の現地見学会等を開催し、国有林の知見やフィールドを活かした情報発信等を通じて、理解を深めていただくとともに、今後の保育方法等の検討に資する。

# 実施の状況と結果

## 【これまでの実施内容】

### ドローンを活用した効率的な現況把握

厚真町において、約3200haの被災森林の復旧及び森林経営管理制度に基づく森林所有者への経営管理の意向調査対象森林の設定を進めていたが、被災森林の現況把握が十分進んでおらず、広大な対象森林の現況把握をどのように計画的に進めるのか課題を有していた。



(町有林の被災状況)

令和2年度に厚真町から森林の効率的な調査方法に関する相談を受け、胆振東部森林管理署において、令和4年度まで一般民有林の被災状況・森林現況の把握のため、ドローンを活用した林況把握及び被災地復旧箇所の森林整備事業の申請資料（デジタルデータ）作成等について支援した。

ドローンによる支援が契機となり、令和5年度より厚真町及び苫小牧広域森林組合において、ドローン、オルソ画像化ソフト及び高性能パソコンが導入された。

現在、森林整備事業（地拵・植付、下刈）の補助金申請の一部をドローンによる撮影・オルソ化したデジタルデータにより実施しており、厚真町及び苫小牧広域森林組合にドローンの活用が定着し、胆振東部地震の被災森林復旧の推進に寄与する事ができた。

## 【令和7年度の実施内容】

### 高密度カラマツ天然更新地の現地見学

崩壊地に高密度に発生したカラマツ天然更新地の保育方法の実証試験に取り組んでいる厚真町の一助となるべく、令和6年度より苫小牧の国有林において、風倒被害地に更新した樹高・生育密度の異なる高密度カラマツ天然更新地の現地見学会を厚真町及び森林組合関係者を対象に開催している。引き続き開催の要望があったことから、今年度においても地域の林業関係者を対象に、同様の現地見学会を開催した。



(高密度カラマツ天然更新地の現地見学)

参加した厚真町の関係者等から「カラマツ天然更新地の今後の推移について具体的なイメージを持てるようになった」「密度調整後のエゾシカや野鼠による被害についても調査が必要」などの意見が出され、理解を深めていただいたとともに、今後の保育方法の検討に資するものとなった。



(崩壊地のカラマツ実生苗更新状況)

## 今後の展開

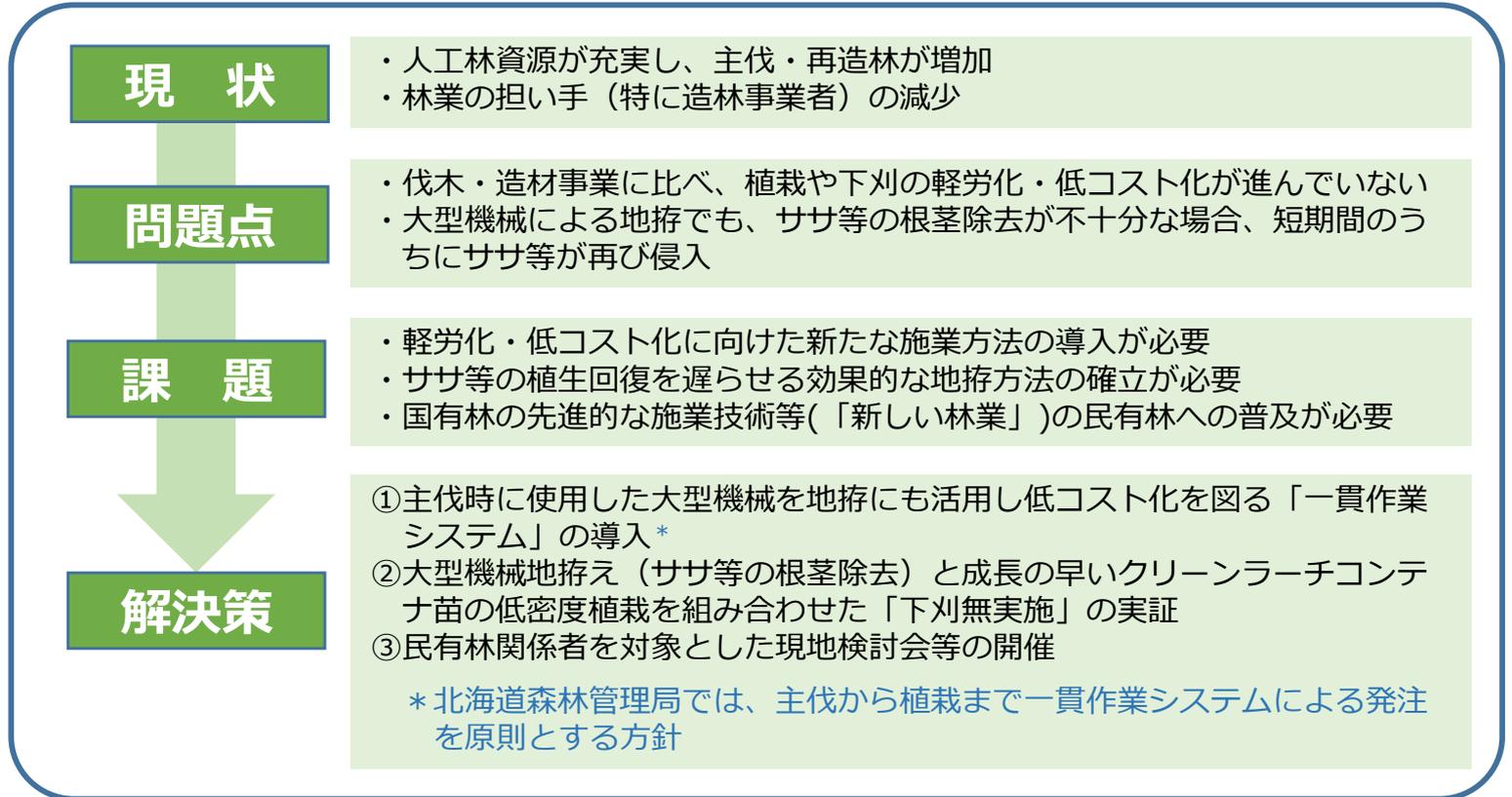
令和8年度においても、胆振東部地震森林再生実施計画に基づく計画的な森林の造成の一助となるべく、厚真町のニーズを聞き取りながら、関係機関と連携した取組を進めていくとともに、国有林のフィールドを活用した情報発信を行い、同町の森林再生・復旧に向けた長期的な取組のサポートを実施していく。

# 大型機械地拵+クリーンラーチコンテナ苗植栽による 下刈無実施の実証と民有林への普及

## <関係機関>

十勝西部森林管理署東大雪支署、十勝管内市町村・森林組合・林業事業体、北海道水産林務部、十勝総合振興局産業振興部林務課・森林室

## 背景と経過



## 実施の状況と結果

### ①大型機械地拵+クリーンラーチコンテナ苗植栽による下刈無実施の実証

#### 【実証地の概要】

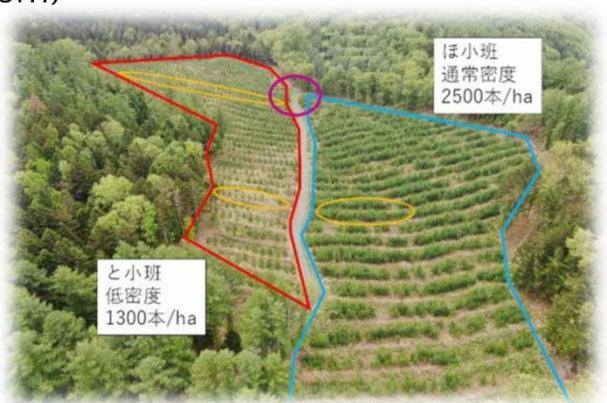
〈所在地〉

十勝西部森林管理署東大雪支署 屈足国有林 1319林班ほ・と小班

〈施業履歴〉

- 平成28年 皆伐
- 平成30年9月 大型機械地拵（刈幅6.0m、残幅3.0m）
- 10月 クリーンラーチコンテナ苗植栽
  - ほ小班：3.53ha（2,500本/ha）
  - と小班：2.40ha（1,300本/ha）
- 令和元年 根踏

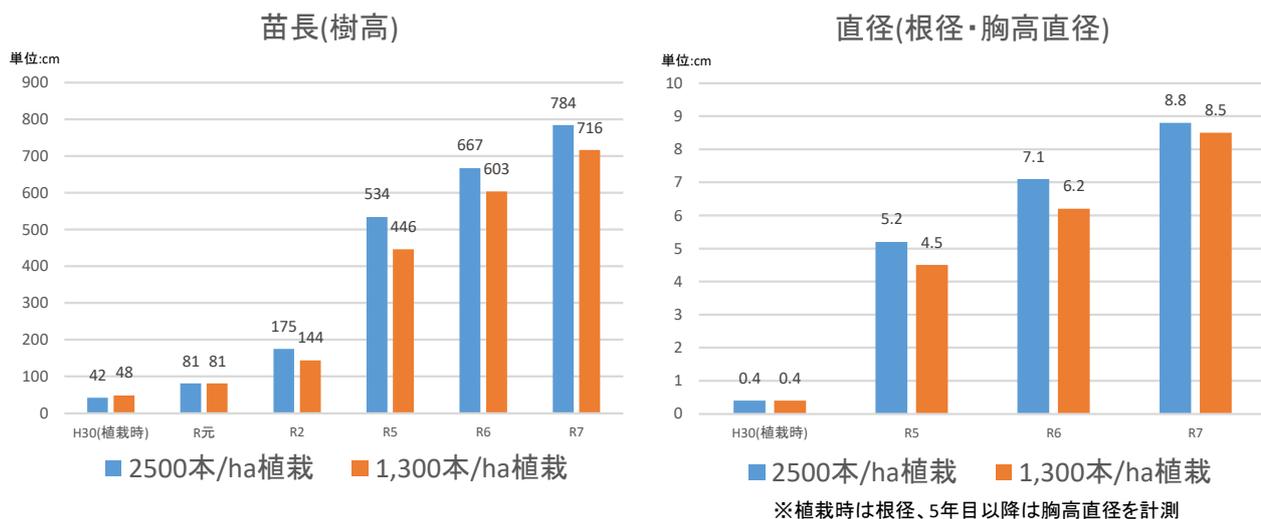
◎ 令和7年現在まで、下刈は無実施



実証地全景

## 【成長の推移】

H30年秋に植栽し、R2年時には樹高が下層植生の高さを超え、**下刈無実施で成林**



## ② 民有林関係者への普及

市町村、森林組合、林業事業者、道（水産林務部、十勝総合振興局）等を対象とした研修会・意見交換会で本実証地を活用し、先進的な施業技術を普及



R6.11.6 「効率的な造林技術の普及」現地見学会



R7.11.13 市町村・森林組合 新任職員等技術研修会



R6.7.24 下刈省略造林地現地視察(道水産林務部森林海洋環境局長外)

## 今後の展開

林業の担い手（特に造林事業者）の減少は更に進むと考えられ、植栽や下刈の軽労化・低コスト化に資する本実証地での取組は示唆に富むものである。

本実証地の下層植生はクマイザサであるが、ササの種類（チシマザサ、ミヤコザサ等）により根茎が集中する深さに違いがあるとの知見もあることから、今後は下層植生の異なる現地での実証等によりノウハウを蓄積するとともに、研修会・意見交換会等を実施し民有林関係者への普及を進めるなど、民国連携した取組を継続していく。

発行：フォレスター活動民国連携調整会議事務局

北海道水産林務部森林海洋環境局成長産業課  
〒060-8588 北海道中央区北3条西6丁目  
電話(011)204-5517(直通)

北海道森林管理局森林整備部技術普及課  
〒064-8537 北海道中央区宮の森3条7丁目70番地  
電話(011)622-5245(直通)